

公益社団法人私立大学情報教育協会
2020年度第1回FD情報技術講習会運営委員会議事概要

- I. 日 時：令和2年11月10日(火) 17:00~19:00
II. 場 所：Zoom 会議室
III. 参加者：河合担当理事、今井委員長、及川委員、中村委員、枳尾委員、家本アドバイザー、
山本アドバイザー、渡辺(淳)アドバイザー
事務局：井端事務局長、野本

IV. 検討事項

今年度の「FDのための情報技術研究講習会」の実施可否について、以下のような状況確認・意見交換を行った。その上で今年度は、オンライン開催での実施を検討することにした。

(1) 開催方法について

- ・ 対面形式での開催を検討する場合の会場校については、関西の一つの大学で、感染予防対策を前提に現時点では実施申請による利用認可を得られることが確認された。
- ・ 各大学の出張取扱いについては、原則控えるような指示が出ており、個別の申請・許可が必要になっている。そのため、参加者及び講師の出張可否が見込めないことが想定される。
- ・ 昨年までの研究講習会は、演習形式で参加者が知識・技能理解を通じて、問題・疑問を解決しながら自らの授業を想定し、ヒントなどを獲得していたことから、個別対応が可能な対面形式での実施に意義があったと考える。現状、各大学でオンライン授業が進む中で、一部の教員がオンライン授業実施に不安を感じることもある状況から、オンラインでも研究講習会を開催すべきではないか。

(2) 講習内容について

- ・ 昨年のワークショップの内容をオンラインで実施すると考えた場合の意見として、LMS 関連の基礎的な理解はオンライン授業が進み、各大学 LMS が何らかの形で利用が進んだことから昨年レベルは役割を終えたと考える。自大学の LMS を今後どのように上手に利用したら良いかが希望ではないか。
- ・ 動画教材作成の取組みも進んでいると思われるが、講習をする場合は、PC・スマホの2つの機器を同時接続して使うことで個別指導できる可能性があると考えます。
- ・ ソフトの紹介では、オンライン授業をサポートするソフトや LMS に連携できるソフトなどが紹介できると考える。
- ・ フォーラム型 PBL の取組みは、紹介とブレイクアウトルーム機能を使って体験型の討議も考えられる。
- ・ ポートフォリオは各大学で LMS に組込まれている場合があり、整理する必要がある。
- ・ オンライン授業の対応を通じて、各大学で既に習得している部分がある。授業を実施しているパターンはあるので、どのようにすべきかを議論する必要がある。
- ・ 理解促進には、3回~5回実習を行うなど、新たにコース設計を考えてはどうか。
- ・ オンラインで3時間の講習は、トラブルの発生を考えた場合、困難ではないか。
- ・ オンライン授業を実施したが、学生からの評価が思わしくなく、失敗したと継続を諦める教員もあるが、コンテンツや授業構成など本人を含め考える形で解決できる場合もある。
- ・ 大学インフラの条件はあるが、オンライン授業での、リアルタイム型やオンデマンド型などの例示をみて、その改善点を提示しながら授業を見直すことも考えられる。
- ・ テーマは、オンデマンド型オンライン授業、リアルタイム型オンライン授業、コンテンツ作成、オンライン授業の学修評価、データサイエンス教育、PBL について、授業での取組みを含めて講習を設定できないか。

V. 今後のスケジュール

- ・ 次回の委員会は、11月18日に開催し、講習内容を持ち寄り検討することにした。